

## ② 「自分らしさ」はどこにあるのか

社会の変化による意思決定への影響とは？

### 社会の変化と個人の意思決定

前頁では、新卒採用・就職の現場において、「選択」機会の増加と課題の所在について示した。「自分らしく生きていくために、自分らしい選択をする」ことは望ましいことである一方で、「自分らしいとは何か」は、哲学的な問いをはらむ※1。選択の意思決定に関しては、認知科学・心理学研究の立場から様々なことが明らかにされてきており、特に昨今のアジェンダは、急速に進化するIT社会を踏まえ、我々は普段見聞きする情報から思っている以上に無意識に影響を受けているというものである(図①)。

周知のようにインターネット検索やSNSを利用するとき、情報がパーソナライズされ、興味関心に合わせた構成が目に触れるようにアルゴリズムが作られる時代となった。自分なりに広い情報から合理的に正しく選択していると思っても、実際は限られた情報の中で他者の価値観に影響さ

れ、偏向的な判断や選択をしている可能性がある。この時代変化はいま進路の選択とはどんなものであるか、どうあるべきかを考え、議論する理由として重要な点と考える。

### 社会とのつながりを通した「自分らしさ」

就職活動が(企業からも選ばれなくてはいけない)「マッチング」である以上、「自分らしい進路選択」は独りよがりなものではなく、社会との関係性の中で追求する必要がある。

「いま」以上に「将来」社会的に必要な人材や社会の未来に思いをはせることは、“社会の中での”自分らしさを考える道しるべとなるはずだ。未来人材会議※2では、これからの日本の人材の在り方が議論されている中で、今後は従来日本企業で重要視されてきたスキル・能力とは全く別のものが問われるとしている(図②)。未来の社会の中でどう自分らしさと向き合うか、右頁の大島氏の取材記事を参考にされたい。

※1 古来より哲学の世界では「自由意志の問題」(人間が、何の外的影響も受けずに自発的に“意志”を生み出すことができるか否か、人間に行動の自由があるかどうかという問い)が議論されてきた。

※2 経済産業省2021年12月設置

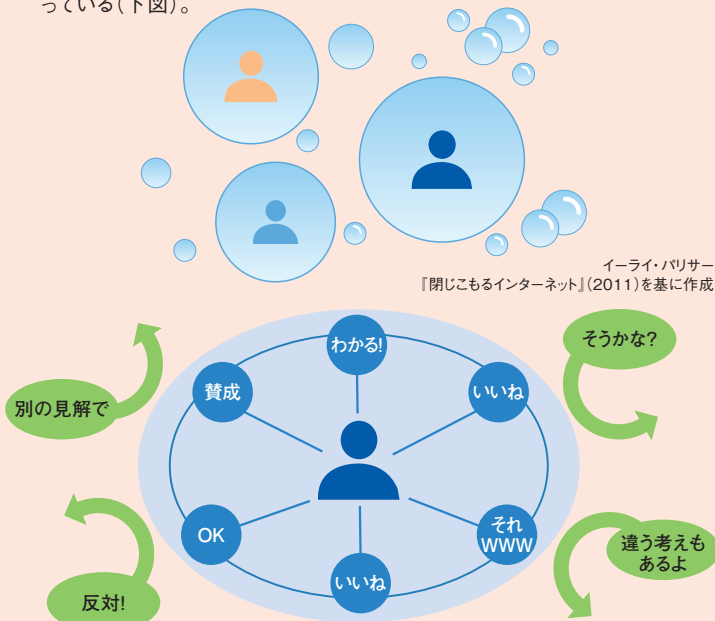
#### ① インターネットでの情報取得に潜むリスク

##### 『フィルターバブル』のリスク

インターネット検索・SNSでフィルターをかけられ、パーソナライズされた環境で情報取得をしている(下図)。

##### 『エコーチェンバー』のリスク

SNSや動画配信は自分と同じ意見があらゆる方向から返ってくる「反響室」(エコーチェンバー: Echo chamber)のような狭いコミュニティとなっている(下図)。



#### ② 56の能力等に対する需要の変化

2015年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14
責任感・まじめさ	1.13
信頼感・誠実さ	1.12
基本機能(読み、書き、計算、等)	1.11
スピード	1.10
柔軟性	1.10
社会常識・マナー	1.10

2050年	
問題発見力	1.52
的確な予測	1.25
革新性(新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力)	1.19
的確な決定	1.12
情報収集	1.11
客観視	1.11
コンピュータスキル	1.09

注：各職種で求められるスキル・能力の需要度を表す係数は、56項目の平均点が1.0、標準偏差が0.1になるように調整している。  
出典②：経済産業省未来人材ビジョン



## 変容する未来社会における課題の捉え方と「決断」の先にあるもの

東京大学大学院情報学環および生産技術研究所教授  
大島 まり氏

### 社会課題の解決と自己調整

社会は急速に変化し求められる能力やスキルは絶えず更新が必要な時代、身に付けた技術や知識が陳腐化する不安を抱えながら、私たちは柔軟な対応を求められています。一方で、幹のない枝葉を増やすのではなく、自分のキャリアとしての軸をしっかり持つことは重要です。ただ、学生の皆さんにとって、急変する社会で求められる能力を予測し、日頃の学びと結び付けることは、非常に困難なことでしょう。

就職活動をしていると分かりますが、世の中には社会的な課題があり、それを解決することが社会の役に立ちます。そこでこれから必要になってくるのは、「社会的な課題を自分事として落とし込む力」です。落とし込んだ際に自分がその課題解決に意欲が湧くか、求められる知識が自分の持っているもので解決できるのか、もしくは新しく習得する必要があるのかを判断し、課題解決に意欲が湧かなければ別の課題を探し、知識の習得の必要があるならそれに応じた学びに向き合うという自己調整が、今後必要になってくるでしょう。

### 「答え」を自分なりに評価する

社会の問題が複雑化している一方で、自動化技術が向上し、データ入力すれば即座に答えが返ってくる時代です。そこで学生の皆さんに伝えているのは、どんな答えが出てきても、出てきた答えを自分なりに評価することの重要性です。回答をうのみにせず、「本当に正しいのか?」「どういう形で使えるのか?」を判断するのが大事で、だから理論を勉強する必要があると伝えていきます。実社会の仕事は答えがない世界です。進路選択に当たってそういう世界へ入っていくという自覚を持ち、出された答えに対して「これはおかしいのではないか?」と思考することが、どの職業でも必要なのではないのでしょうか。自分が仕事にしたい社会的な課題を発見することは(答えのない世界で)難しいですが、自発的に情報を集めたり体験してみたりすることで近づくことができます。

また、社会の急速な変化に対応する能力(知識)を追い続けることは難易度が高く、そのためには「主体的な学び」や「ワクワクする」など、自分が興味を持つ対象への自発的動機づけをもって「やり遂げる」ことが重要です。では、どうやって興味対象を見つけるか——それはやってみるしかないのです。やってみて、自分に合うかどうかを確認していきます。例えば、最近の学生は積極的にインターンシップを経験することで様々なコミュニティに接する機会を持っているようです。アルバイトも含めたこうした社会と関わる機会の中で「言われたからやる」ではなく、「自らもっと深めたい」と思えると、自発的な動機づけにつながります。

さらに、こうした経験の機会にむやみにトライ&エラーを繰り返すだけでなく、メタ認知を通して自分の経験を客観的に整理検証し、次の挑戦に生かす技術を身に付けていくことが大切です。その繰り返しで自分自身の興味を見つけることができるはずですが、新卒採用では、ジョブ型採用や通年採用も加わり始め、多様化しています。そうすると反対に学生の皆さんも多様性の中の一つのファクターです。今後の日本社会で求められていることを理解しながら自身の輪郭をメタ認知する必要があります。

一方企業の皆さんへお伝えしたいのは、学生が求めている情報は、必ずしもスキル定義だけではなく、会社のビジョンや将来像の共有だということです。入社後に、頑張らなければならないことはありますが、その努力は会社のためでもあるが、本人自身にもプラスになるということを示してあげると、本来持っている素直さでのびやかに力を発揮する学生が多いので、双方にとって良い方向にいくと思います。

### 決断に正解はない。必要なのは覚悟

就職先を決める際は、相当な労力で決断すると思いますが、100%後悔しないということはありません。結果を評価することが大事だと言いましたが、選択についても当てはまりません。選択肢が多く、判断の必要性も増えていますが、結果を受け止める覚悟を持つためには、納得できるまで自分で情報を集めて選択して決断するしかありません。万事塞翁が馬で、決断の結果、苦い経験があるかもしれませんが、後で良くなるかもしれない。そこに正解はないのではないのでしょうか。どちらの道を選んでも苦しいことや多少の後悔はあります。キャリアは一人では築いていけないもので、捨てる神あれば拾う神あります。社会問題が複雑化する中、自分が貢献できる部分があれば、努力してもかなわないところもあります。自分に足りない点を把握し、それを補ってくれるスキルを持つ人とチームを組んでコミュニケーションを取り解決していくことが、今後必要になってくるでしょう。私自身、様々な人の助けを得てきましたので、反対に自分も人を助けたいと思います。学生であれば会社を選んだ先で人間関係が生まれ、その関わりの中でまたキャリアを選んでいきます。どんな決断であれ、あまり深刻になり過ぎず、結果を受け止める覚悟を持ち、その先で出会う人との縁を大切に、やり遂げるまで続けてみてはいかがでしょうか。

Profile●東京大学大学院工学系研究科原子力専攻修士・博士課程修了後、同大学生産技術研究所助手。文部省在外研究員(米国スタンフォード大学)、東京大学生産技術研究所講師、同助教授、同教授を経て2006年より現職。2021年より未来人材会議委員を務める。「女子学生の理系進路選択促進のための科学技術への理解増進」において文部科学大臣表彰を受賞(2022年度)。